

令和7年度 諸塚村立荒谷小学校 自己評価書

【評価】 4 よい 3 おおむねよい 2 あまりよくない 1 よくない

具体的な実践		学校の自己評価コメント	自己評価		学校関係者評価	学校関係者評価コメント	
学力向上	1	主体的な学びの育成	少人数指導の特性を最大限に活かし、個々の実情に応じた対応を図り、基礎学力の定着に努めている。また、授業の中で考える場面や考えを伝え合う場面を設定し、主体的・対話的で深い学びの具現化を目指している。	3.5	3.5	3.9	田植え体験を通して、ひえの存在に気づいていた。実際に体験しないと分からない発見が子ども達に多くあったのではないかと。
	2	個に応じた指導の充実	毎月の悩みアンケートや教育相談、すこやか委員会を通して児童の様子を共有している。本年度は全職員で全児童と教育相談を行い児童理解に努めた。また、通級指導教室やまろっこクラブ、村教育委員会等の関係機関と連携しながら支援の充実を図っている。次年度はユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを充実させたい。	3.5			文章読解や要約について、引き続き力を付けてほしい。
	3	ふるさと教育の充実	総合的な学習の時間(わくわく学習)において、田植えから脱穀までを実体験したり、寿会の方々とグランドゴルフを通して交流したりと地域との密接な関わり合いの中で大切なことを学ぶことができている。	3.8			先生方に、特性がある子どもの個性に応じた対応を考えて、接していただいているので非常にありがたい。
	4	キャリア教育の充実	キャリアパスポートを効果的に活用し、教育活動全体を通じて意図的・計画的にキャリア教育を行うことができている。係活動・当番活動・児童会活動の取組を充実させることで、自分の役割を理解し、責任をもって最後までやり遂げる経験を積み、他者のために働くことの大切さを学び、社会参画の素地を築いている。次年度は、様々な方の生き方・考え方にふれる機会を生かしていきたい。	3.3			授業で個に応じた指導をいろいろと工夫している。
	5	ICT活用 メディアリテラシーの育成	日々の学習や家庭学習において、観察や考えの比較、教材の提示等で活用している。調べ学習では、知り得た情報の取り扱いや学習をまとめる資料での活用について指導してきた。職員の自己評価が低いため、より現場ですぐに活用できるようなICTの研修を取り入れていきたい。	3.3			複式指導の際、間接指導がよくなっている。
豊かな心の育成	6	児童同士の望ましい人間関係の構築	すこやか委員会を中心に児童の様子を把握し、適切な指導について、職員で共通理解している。全校児童での活動が多いので、異学年との関わり方や昼休み等の言葉遣いなど、職員が気付いた時に、随時声かけをしていくようにしている。	3.5	3.6	3.8	グランドゴルフなどの各種行事で地域と係わっている様子をよく見るので続けてほしい。 各学年の人数が少なく、全校児童での活動が多くなるが、異学年で活動だからこそ、思いやりの心が育っているのではないかと。 学習発表会に、地域の方がたくさん来ていた。地域みんなで子どものことを考えていると感じた。
	7	地域との体験活動の充実	児童が地域との交流や体験活動をいつも楽しみにしている。児童や地域の方々にとって、より交流が深まる活動の在り方を念頭に実施してきた。今後も、地域の方々の声も取り入れながら、改善を図ってきたい。	3.9			あいさつは向こうからしたり、こちらからしたりすることがあるが、子ども達のあいさつに対する意識は高く、良好ではないかと。
	8	基本的な生活習慣の定着 (規範意識、あいさつなど)	学級での指導を中心に、あらゆる場面であいさつや廊下歩行など指導してきた。特に、気になるものはないが、あいさつや返事など日常的なもの、「諸塚あいさつの日」を意識させるなど、日々の指導を根気強く行い、更なる定着を図っていく。	3.5			体育の授業はみんな元気があって、考えながら競技に取り組んでいて、非常に楽しそうで、見ているこちらまで楽しい気持ちになった。
体づくり	9	児童の体力向上	体育科学習において、児童の運動への興味・関心を高めることで運動に親しむ態度を育て、体力向上につなげることをねらっている。今後も、合同体育や学年体育の効果的な在り方を協議しながら、体育科学習の充実を図る。リズムダンスへの取り組みで、児童の体力や俊敏性が高まっているように感じる。	3.5	3.3	3.7	人数は少ないが何でもみんな協力して取り組んでいる。
	10	健康安全に対する意識の高揚	毎月の身体計測や避難訓練などを通して、児童の健康や安全に対する意識の高揚を図ってきた。早寝、早起き、朝ご飯、メディアコントロールなどで課題が残るため評価が低くなっている。引き続き、家庭と連携しながら指導していく。	3.1			
家庭地域との連携	11	学校の様子の発信 (HP、学級通信)	学校便りやホームページ、村報などで発信している。今後も継続して取り組むとともに、あらゆる方法で発信していることを伝えていくようにする。本年度は学校便りにホームページにアクセスできるQRコードを添付するようになった。	3.8	3.8	4.0	以前荒谷小に在籍していた子が、今でも荒谷小ホームページを見ることを楽しみにしているようだ。
	12	学校と地域の交流 (PTA活動、地区の祭りなど)	学校行事等で地域の方々から惜しみない協力をさせていただいており、学校側も地域との連携を密にし、できるだけ児童や職員が地域の行事に参加できるように心がけてきた。 学校のホームページで、閉校に向けての情報も発信していく予定である。	3.9			

児童に身に付けさせたい4つの力	13	人を大切にする力	おおむね良い以上の評価がほとんどであるが、中でも児童自身が人を大切にすることができているという評価を100%としており、普段の声かけや道徳教育の実践の成果ではないかと考えられる。	3.5	3.5	3.8	<p>箕舞の指導で係わった際に、児童が積極的に自分から舞を教えてほしいと訴えてきたので、向上心が素晴らしいと感じた。子ども達が成長している。</p> <p>率先して動ける高学年の姿が見られた。先生方の指導のおかげである。今後も高めてほしい。</p>
	14	自分の考えをもつ力	教師と保護者は「おおむね良い」とする評価が多くなっているが、児童は8割が「よい」としており、自分の考えをもつことができると考えている児童が多い。客観的にみてまだ考えが不十分であったり、筋道を立てて考えをまとめることができていないという部分で大人からの評価が低くなっているのではないかと推測できる。	3.4			
	15	表現する力	自分の考えや気持ちを他者に伝える力のことであり、現代の教育で非常に重視されている能力である。語彙力、構成する力、状況に合わせて、適切に伝える力等、様々な能力が必要になってくる。高い自己評価であるが、さらに高い表現力を身に付けられるよう教育活動全体を通じて意図的・計画的に指導していく。	3.4			
	16	チャレンジする力	自己評価では総合3.6と高い評価である。挑戦できる子どもの特徴としては、多くの物事に興味を抱き好奇心旺盛である、ポジティブ思考である、失敗を恐れない等が挙げられる。このことを踏まえ、子どもの挑戦を認め、賞賛し、児童が自分の行動に対して自己肯定感を高められるような声かけを実践していく。	3.6			